



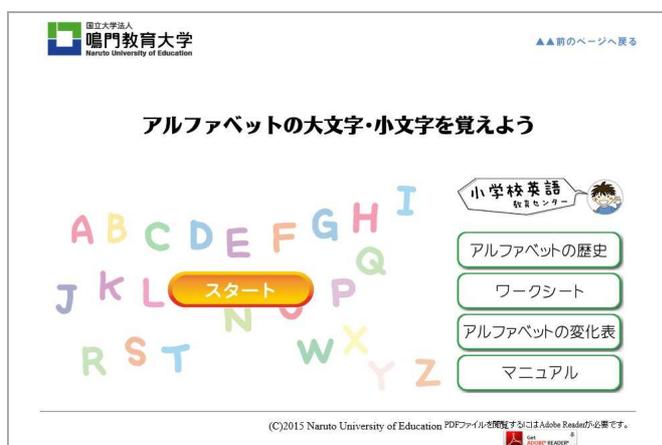
センター作成のアルファベット初期指導用DVDをお届けしています



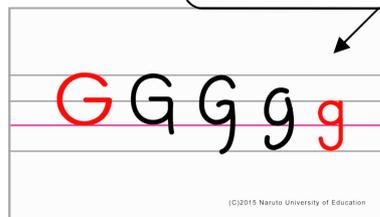
鳴門教育大学 小学校英語教育センターでは、センター作成のアルファベット初期指導用DVD「アルファベットの  
大文字・小文字を覚えよう」を各学校や地域のみなさまからの依頼に基づき、送付を行っています。

大文字が700年以上かけて小文字に変化していった過程をグループで考え、その後動画で答えを見ることで、  
楽しく興味を持ちながら学習ができる画期的な教材です。指導者用のマニュアルやワークシートも充実しています。

## DVDトップ画面



大文字から小文字へ変化して  
いく過程を動画で確認できます



『アルファベットの  
大文字・小文字を覚えよう』DVDを使用した学校様から  
アンケートをお答えいただきました(14枚)



### 対象者

学年	実施学校数	人数(計)
4年生	1	30
5年生	3	214
6年生	5	650
中学校1年生	1	93

### 児童の様子や感想など

・アルファベットの  
大文字から小文字に変化する  
様子が、わかりやすく視  
聴できた。よく似た文字、  
少し似ている文字、大文  
字と全く違う文字があり、  
それぞれの変化をたいへん  
興味をもって納得しながら  
学習できたと思う。

・とても興味を持って学  
習に取り組んでいた。DVD  
で実際に大文字から小文  
字への変化の過程を見るこ  
とで大文字・小文字のつな  
がり・組み合わせを意識し  
ながら書き、読める児童も  
増えたように思う。



## 小・中学校英語教育研修のための講師派遣



Mima City welcomed the Center for English Language Education in Elementary Schools again on February 16th. I conducted a workshop for a small group of ALTs, Japanese teachers and graduate students from this University. There were nine people in attendance. Because of the mixed group, we were able to have an interesting discussion about the JET Program, team teaching and other related issues. Mima City also welcomed three new ALTs last August and it was very nice to meet them. (マーシェソ)



## B 附属小学校 研究発表会

2月11日（土）、鳴門教育大学附属小学校において、第63回研究発表会が行われました。本年度は『協創の教育』『新しい価値』を創り出す子どもを育てる」を研究主題とし、一人一人の子どもが仲間とともに学び合う中で、個性や能力を発揮し、「新しい価値」を創り出すことができる学びについて研究を進めてきました。大学の小学校英語教育センターとの「先駆的かつ持続可能な小学校英語教育プログラム」の共同研究も絡め、英語を読むことや書くことを取り入れた活動を公開しました。

公開授業、第5学年「Special Pamphlet-日本の学校を伝えよう-」（授業者：青山祥子、ALT：Christopher Prowant）は、オーストラリアの小学校と交流学習で用いる、附属小学校のパンフレット作りの一場面を公開しました。

今回の公開授業では、英語で書かれたオーストラリアの時間割を読み解き、自分たちの時間割をつくるのが学習課題でした。この学習課題に取り組む中で、これまでの学習の成果を生かしたり、友達と意見を出し合ったりし、自分から英語を読もうとする姿が見られました。

次期学習指導要領では、高学年では、英語を「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」も含めた授業展開が求められています。小学生の子どもにとって、英語を「読むこと」「書くこと」は、少し難しいと感じるものです。そこで、子どもが、自分から英語を読もうとするために、一人一人に自分の役割があるようにしました。今回の授業でいえば、Aさんは、月曜日の時間割担当、Bさんは火曜日の担当のように分け、自分が担当する曜日の教科名の英語を読んだり、日本語で書かれた教科名を英語にしたりするというものです。

また、いきなり英語を書いたり、読んだりするのではなく、絵カードと文字カードを並べるようにしました。こうすることにより、子どもが感じる文字への抵抗感を軽減し、積極的に英語を読んだり、書いたりすることができるようになりました。

公開授業には70名を超える参加者にお越しいただき、中学年から英語活動の実施・高学年での教科化が始まる小学校英語教育への関心の高まりがうかがえました。

公開授業の後の分科会では、研究授業に関する質疑応答や今後の教科化を見据えた話など活発な意見交換をすることができました。助言者としてお越しいただいた大阪教育大学の加賀田哲也先生のワークショップでは、「英語教育は人格の完成を」と題し、人と人とのつながりや自己理解を大切にしたい英語教育についてご講演いただきました。

参加者のアンケートには、「本研究会までの取り組みのプロセスが具体的で参考になった」「これからはじまる教科型での授業をイメージすることができた」「助言の先生のご講演が、大変勉強になりました」など、多くのご意見・ご感想をいただくことができました。いただいたご意見を生かして、来年度の研究をよりよいものにしていきたいと思っております。

（鳴門教育大学 附属小学校 英語科主任教諭  
青山祥子、小学校英語教育センター 研究補佐員 段本みのり 共同研究者 畑江美佳）



【発行】鳴門教育大学小学校英語教育センター

〒772-8502 徳島県鳴門市高島字中島748番地

E-mail:celees@naruto-u.ac.jp